国指定史跡の追加指定について

＜追加指定される史跡＞

和泉黄金塚古墳（いずみこがねづかこふん）

＜追加指定対象の所在地＞

大阪府和泉市上代町

＜概要＞

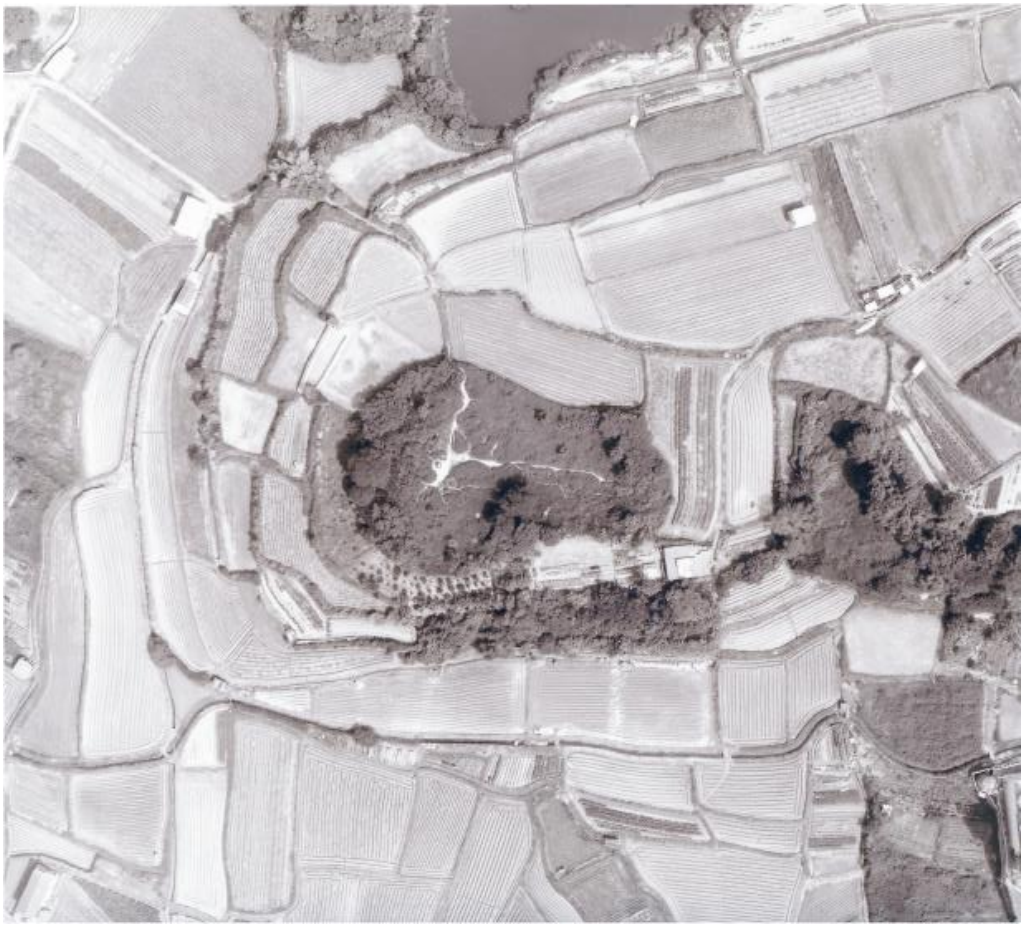
和泉黄金塚古墳は、大阪府の南西部に位置する和泉市上代町に所在し、大阪湾を望む信太山丘陵の標高 39m 地点に築造された前方後円墳です。古墳の全長は 115m、墳長 94m を測り、墳丘は２段築成で、古墳の周囲は周濠状の盾形区画地形があることが確認されています。墳丘裾と１段目テラスでは円筒埴輪列が確認されており、古墳の築造時期は出土した副葬品や埴輪から古墳時代前期末（４世紀後半）と考えられています。主体部には、東西に並んだ３基の粘土槨があり、「景初三年（西暦 239 年）」銘の画文帯同向式神獣鏡や中国貨幣の五銖銭などの豊富な副葬品が出土しました。

畿内地域における前期古墳の学術調査が行われた貴重な事例で、当該時期の副葬品の様相が明らかとなった点で学史的に重要であり、また周辺の広い範囲で自然地形も含め、良好な状態で古墳が保存されていることから国史跡に指定されています。

今回の追加指定地は後円部周辺の北から東にかけての範囲であり、盾形区画地形の一部とその周辺の自然地形が保たれている場所です。今回、条件が整ったことから追加指定されました。



和泉黄金塚古墳の全景航空写真　西から（和泉市提供）



和泉黄金塚古墳の航空写真（和泉市提供）